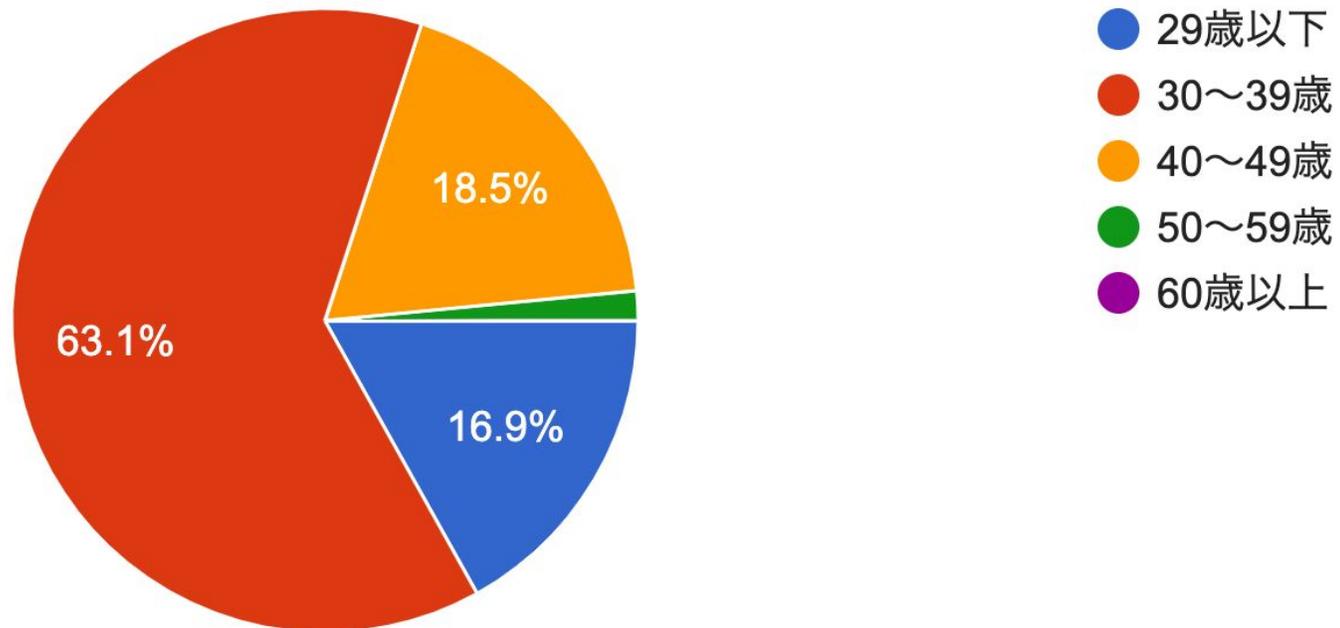


第20回事前アンケート 集計結果

集計:65件

1. 年齢を教えてください。

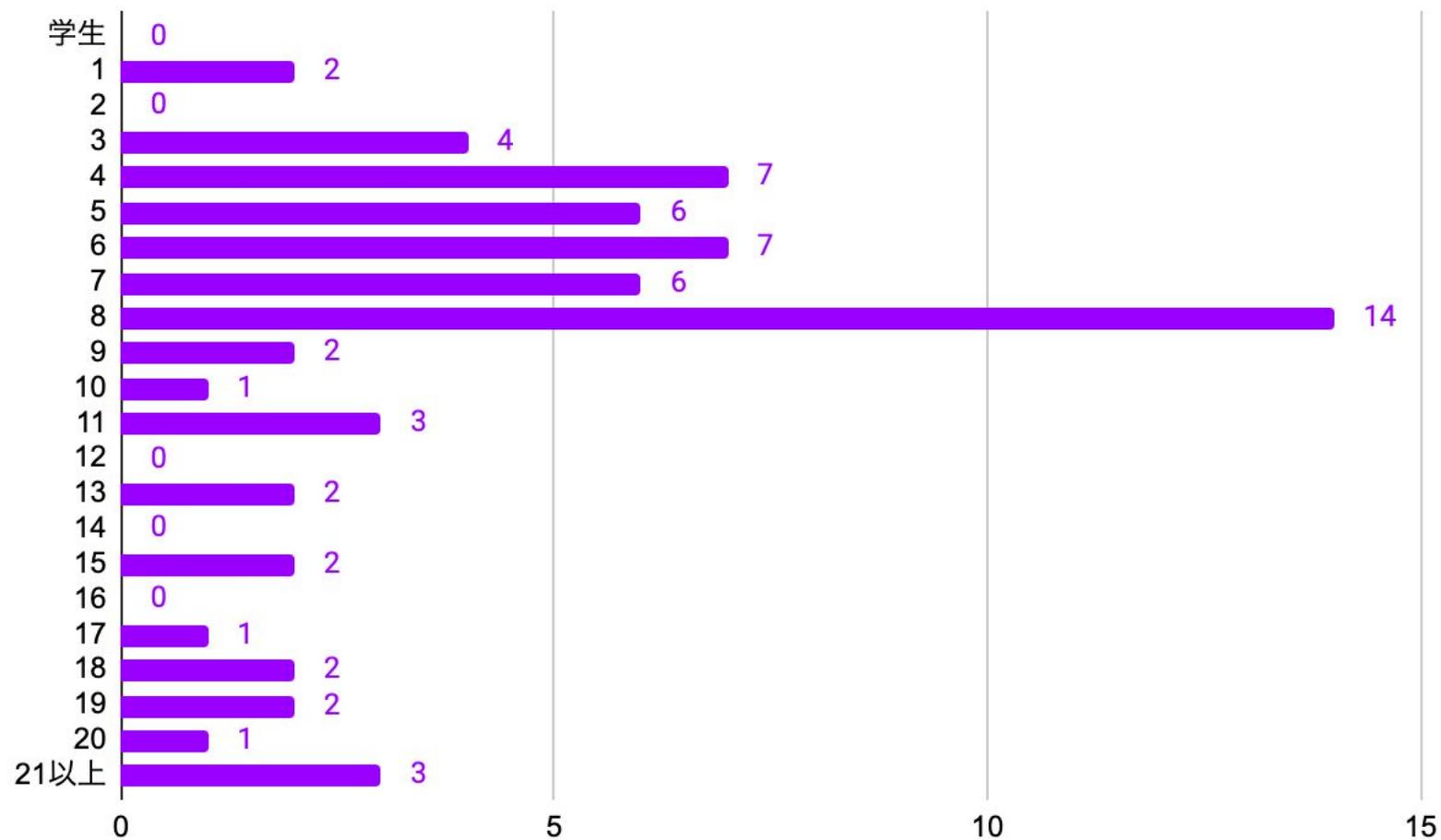
65件の回答



- 今回は60歳以上の回答はなし
- 30代が過半数を占める
- 20代、40代が同等

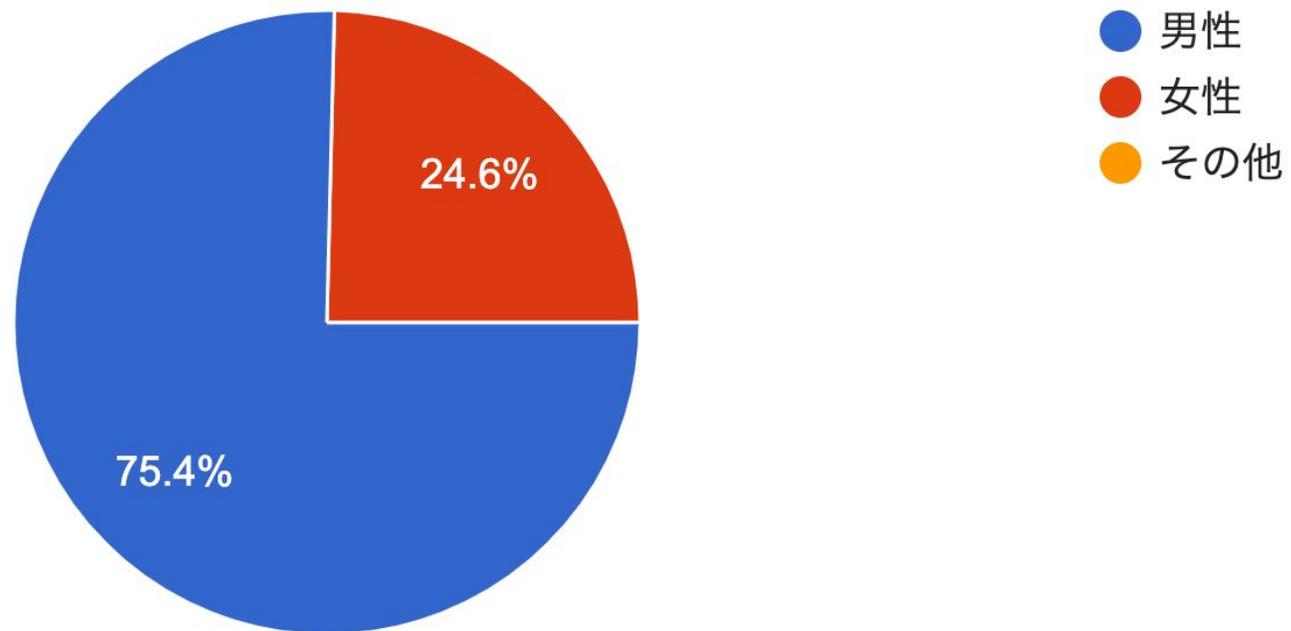
2. 卒後年数を教えてください。

65件の回答



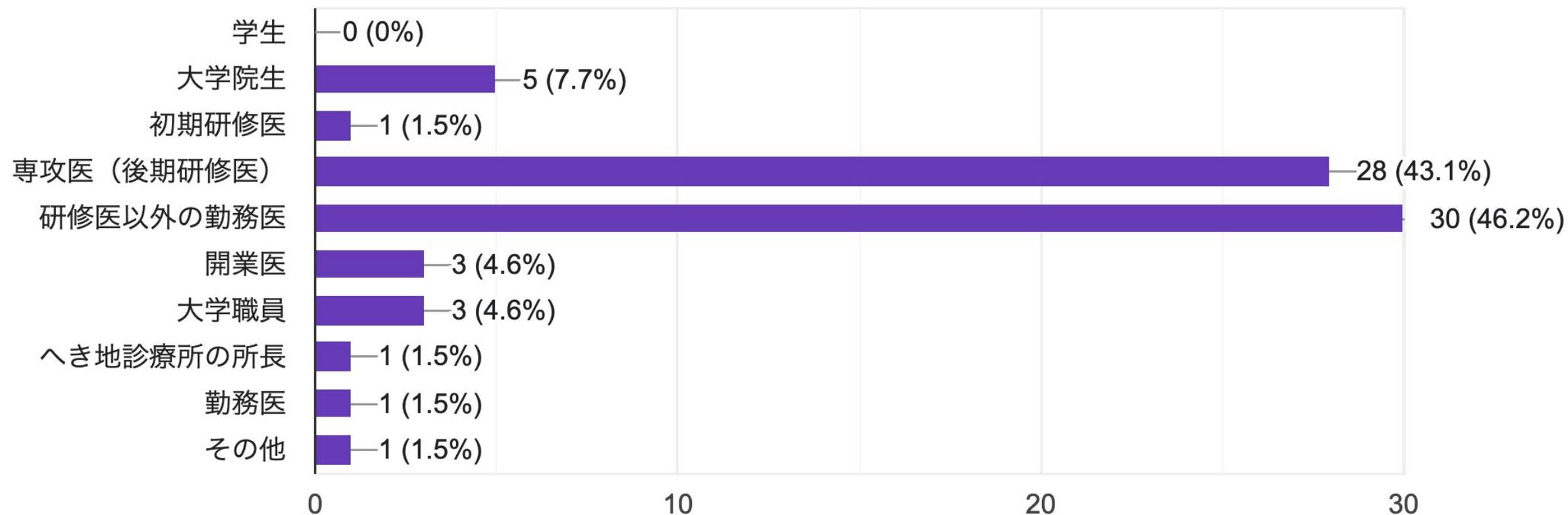
3. 性別を教えてください。

65 件の回答



4. 現在の役職・立場を教えてください。(複数回答可)

65件の回答

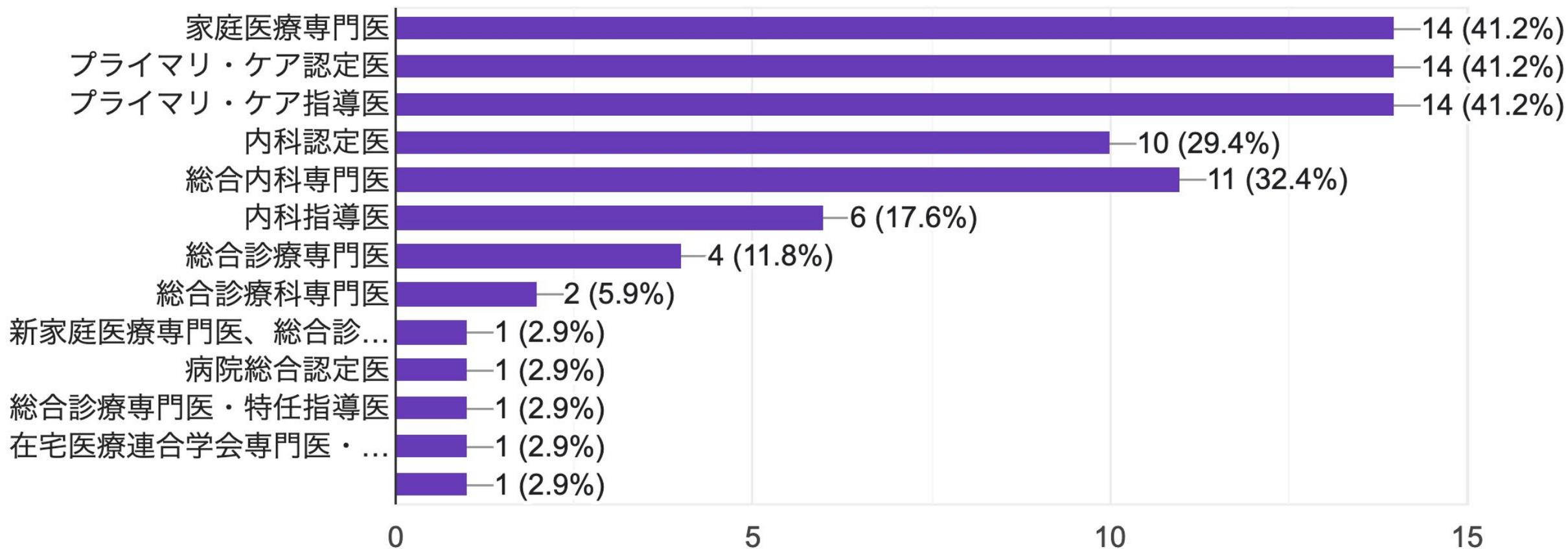


- 専攻医と研修医以外の勤務医が約9割を占める。

5.

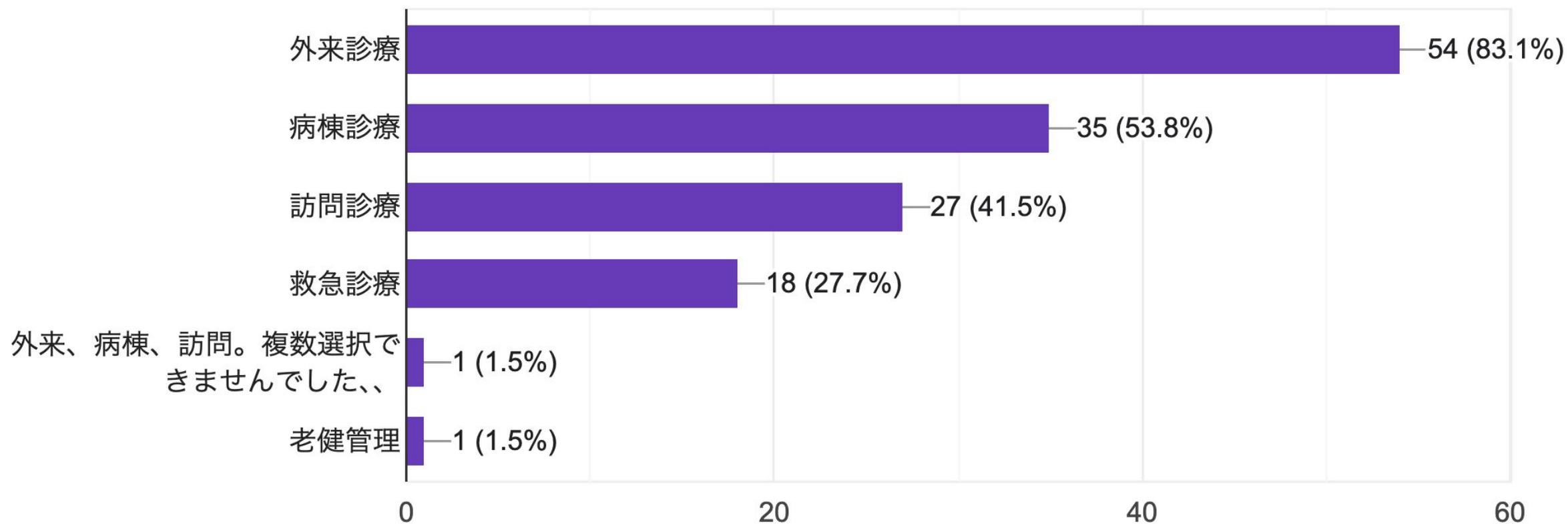
専攻医以上の方にお聞きします。現在のお持ちの専...指導医について教えてください。(複数回答可)

34件の回答



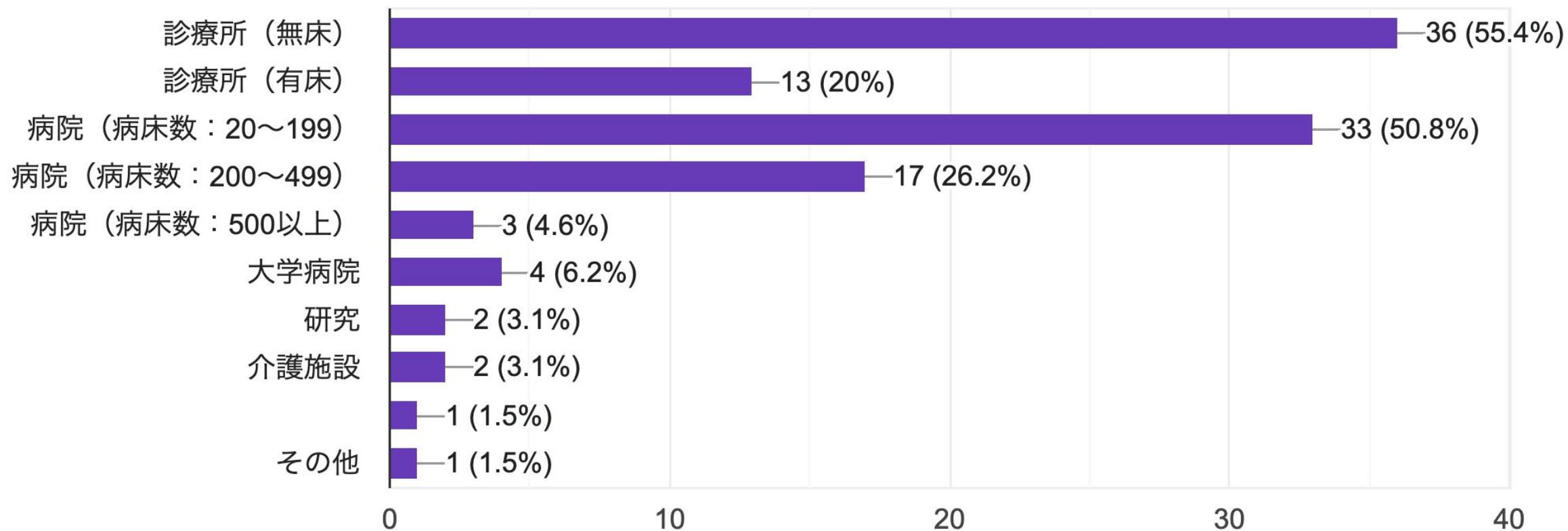
6. 現在の主な診療形態を教えてください。(複数回答可)

65件の回答



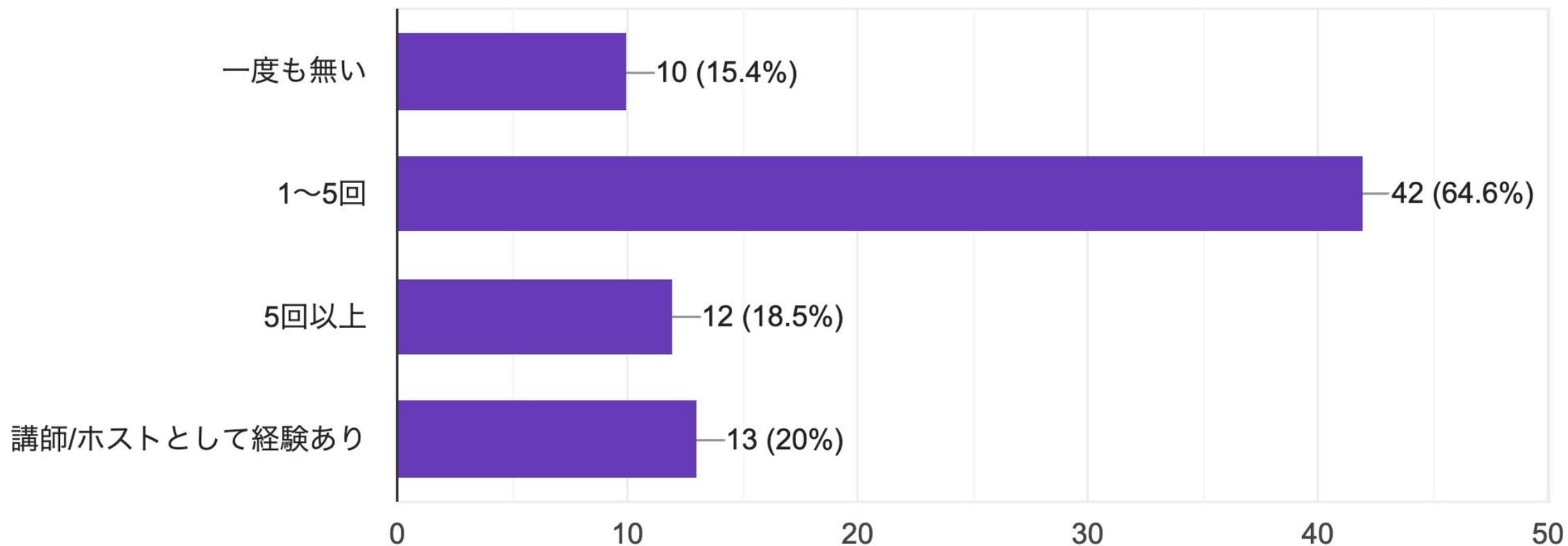
7. 将来最終的に働きたいと考えているセッティングを教えてください。(複数回答可)

65件の回答



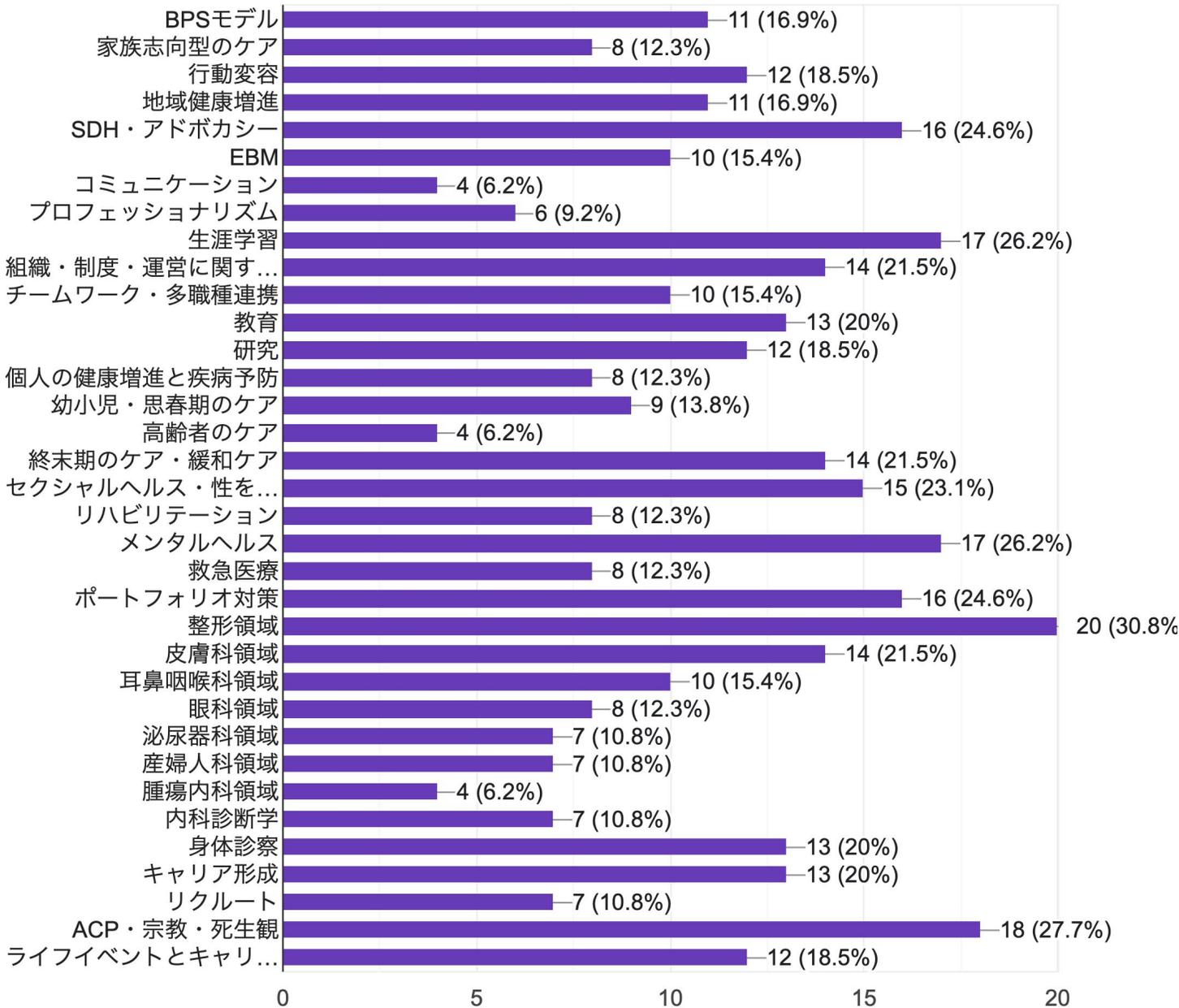
8. これまでの冬期セミナーの参加回数を教えてください。(複数回答可)

65件の回答



9. 冬期セミナーで学びたい分野・興味のある分野を教えてください。(最大5つまで選択可)

65件の回答



- 前年度と比べて満遍なく票が入っている。
- TOP3は整形領域、ACP・宗教・死生観、生涯学習、メンタルヘルス。(ACP・宗教・死生観は前年度新たに追加した項目)。
- 得票率が低いのはコミュニケーション、高齢者のケア、腫瘍内科領域、プロフェッショナリズム。

10. その他、冬期セミナーのワークショップで取り上げて欲しい事があれば自由に記載してください。(13件の回答)

- せっかくJSHGMとの合同開催なので、それも絡めてはどうでしょう。例えばJPCAとJSHGMは合併した方がいいか、など
- JPCAやほかの学会では取り上げられないようなこと、社会では関心が広がっているけど医療業界ではまだ関心が向けられていないことを率先して取り上げてほしいです。
- 地域志向のケア、患者協働
- 慢性腰痛に対する多職種連携。月刊誌「治療」の「プライマリ・ケアにおける腰痛診療」
<https://www.nanzando.com/magazine/detail/900605>の内容について、現地のワークショップで万で見たいです。
- ゲノム医療
- 災害やウィメンズヘルスなどの専門医取得に必須の単位が獲得できるワークショップ
- 産業医に関する内容があれば嬉しいです！実践する時の注意点など。
- コミュニティホスピタルの諸機能と取り組み共有を行う企画、比較的急性期の在宅ケアを教えてください。都会の診療所の特徴を教えてください
- CIC (Conversations Inviting Change)、全体性(Wholeness)とwell-being

- 災害医療
- 新規開業、継承開業を目指す専攻医のためのセミナー、専攻医以降のキャリア・サブスペについて、専攻医のリクルート戦略を話し合う、経営の学び方、AIの活用、ファカルティーデベロップメントについて、レアな単位が取れるセミナー（メンタル、研究、教育）
- 聾啞認知症高齢者に対する家庭医としての介入方法、スポーツ医学
- 心療内科・コミュニケーション・心理療法

11. 全体講演で取り上げて欲しいことを自由に記載してください。(11件の回答)

- 視野を広げてくれるような講演を期待しています。
- 「プライマリ・ケア医」について一般の人々に広く知ってもらうには
- 日本人の死生観について
- グリーフケア、グリーフカンファ
- 病院総合医と家庭医の協働
- 今求められている総合診療医/家庭医とは。専攻医、指導医、JPCA理事、住民(社会一般)、行政(国)によるシンポジウム形式での、それぞれが思い描く(求めている)、総合診療医/家庭医像について語る。などどうでしょう。
- せっかく病院総合診療学会とのオーバーラップ開催なので、『家庭医療のそれって病院？診療所？』と題打って、地域(都会/地方都市/へき地離島)、対象者(患者の年齢/性別/疾患複雑性)、医療機関(地域にある診療所/中小病院/総合病院/大学病院およびその院内科の構成)、学修者(学生/初期研修医/専攻医/スタッフ/リカレント/研究者)、アウトカム設定(標準診療指標/個別ケア/教育目標/経営目標/地域医療指標/医療経済/学術活動)の各視点から、診療所と病院の家庭医療チームがどう分担するとよいかを解き明かしてくれるような講演
- 「医学的に異常がない→精神的なものですね」からの脱却、全体性を喪失した個人が抱える「病い」への探求

- ケア、はいつでも重要なテーマだと考えてます。他に、ポスト資本主義、社会的弱者との関わり、といったテーマに関心があります。医療者でも、社会的弱者という人々に陰性感情を持つ人もいると思います。社会でも排除するような言説が溢れています。また、相手に必要以上に感情を抱かないように一歩引いているようなレジデントを見かけることがあります。患者のために貢献するという医師のプロフェッショナリズムのあり方、癒しの存在としての医師、周縁化した人々を医療がどうかかわるか...といった点に関心がありますし、さまざまな領域の識者の話を聞いてみたいです。
- 働き方改革と指導・研修・研鑽とのバランスの取り方について考えた講演があれば、と思います。一定の答えはないので、シンポジウム的な開催になると思います。
- 10年後、20年後の地域医療と家庭医としての関わり・重要性

12. 興味関心のある事や冬期セミナーに期待する事を自由に記載してください。(運営への要望も含まれます。)(14件の回答)

- 若手の先生にしか作れないセミナーを期待しています！
- キャリア企画は、国家資格キャリアコンサルタントもちの学会員や委員会に相談したほうが良いと思う(専門医部会キャリア支援部門など)。昨年の企画は、キャリア専門家から見るとスタンダードからかけ離れていたなので、気になっています。
- マネジメント
- 今まで通りの高齢者医療を行っていて今後の日本の医療は成り立っていくのか？日本人の死生観の変革が必要なのは。日本の医療のSDGsを考える必要があると思っています。
- 前回初めて利用しましたが、託児がありがたかったです
- 指導医養成講習会もしてほしい
- 病院総合とJPCAコラボたのしみです！
- 初の病院総合とのタイアップ楽しみにしています！スタッフの皆様現地開催で大変な部分も多いかと思いますが、ぜひ良いものにしてください。応援しています！！

- 3日間の間の2日目は診療所と病院、JPCAと病院総合診療学会の両者が参加しやすい、オーバーラップしているような企画がよいのでは？
- 意思決定支援としての、税理士や司法書士など専門職の関与の余地について。経済状況踏まえた判断に迫られる場面多く、プライマリケアベースの判断に長けた専門職の関わりも今後大いに求められるのではないかと思います。
- スタッフの皆様がんばってください。専攻医が楽しい、学び！と思える会になるのが一番だと思います。
- 病院総合診療学会と合同でやるそうですが、きちんとした病院総合診療学会との線引きができると良いなと思います。毎年仲間内でもりあがっている感じがしますので、初めての人も参加しやすい場作りは検討してください。
- 働き方改革の中で、研修・指導への時間の割き方/使い方、さらには育児との両立、について興味があります
- 同学年との繋がりを作ること、刺激を得ること、自分の興味を深掘りすること

13. 仕事やプライベートに関わらず、現在悩んでいることがあれば教えてください。(差し支えの無い範囲で結構です。)(14件の回答)

- 子育てと仕事の両立(2件)
- 総合診療専攻医が抗菌薬を風邪の患者に処方しているのを見て、先輩医師として、どのように指導したら良いか迷っています。
- 通常業務と家事育児の両立、時間の捻出
- 指導医と専攻医の上手な関わり方。残りたくなる組織とは
- 都会のプライマリケアのキャリア形成 育児、親問題との両立
- 自分自身のケア、メンタルヘルス、燃え尽きなど
- キャリアの見えなさ、自分に求められるものと自分の求めるもののギャップ
- 専攻医や指導医が二十人チームを超えた時点で、二次医療圏や県の医療体制にどう貢献できる組織体制やしきみをつくれるか。そのために誰とどのように交渉・調整をしたら良いか

- 他社と比べて劣等感に苛まれる。後輩と適切な自分らしさで関わるのが難しい。bio-medical面の知識技術の不足。
- 診療所の建て替えリニューアルをすすめていく立場で、経営面、地域とのつながり促進、介護事業も含めた管理運営などに悩みながら取り組んでいます。
- 育児(学童期・幼児期)にも関わらざるを得ない立場である中、自分の関わる診療業務を支えるためにも仲間が欲しいのに仲間が得られないこと、プログラムを立ち上げてみるものの専攻医獲得が難しい、など指導医クラス以上の立場から将来を考えると不安だらけなことです。
- 育児と仕事(自己研鑽)の両立。家に帰ると仕事関係のことが全くできない。でも妻の負担を考えると早く家に帰らないといけない。
- ・先輩方や同期を含め、家庭医として「成長した」と実感できる瞬間を教えてほしい。・家庭医として「ここだけは絶対に負けない！」という武器を見つけるにはどうすればいいか。それらを磨き、実践するためなら研修環境や働く環境そのものを変えていく必要があるか。